

年末年始展示イベント「うま」

2014年の干支である「うま」をテーマに、みんなく所蔵の資料や写真を展示し、世界各地の「うま」にかかわる興味深い情報をご紹介します。

会期 1月28日(火)まで
会場 本館 探究ひろば横休憩所

■関連イベント

◆キャラリトーク
日時 1月13日(月・祝)

11時～11時20分/14時30分～14時50分
解説 小林繁樹(本館教授)

会場 本館 探究ひろば横休憩所
※申込不要、参加無料

◆ワークショップ

「大きな『うま』ジグソーパズルに挑戦!」
日時 1月13日(月・祝)、1月19日(日)

10時30分～16時30分(受付16時終了)
会場 エントランスホール

※当日受付、先着順、参加無料
※6歳未満の方は保護者同伴でご参加ください。

「おりがみで遊ぼう!」
日時 1月13日(月・祝)

10時30分～16時30分(受付16時終了)
会場 エントランスホール

日時 1月13日(月・祝)

10時/10時45分/11時30分/13時/13時45分/14時30分(各回40分)

会場 エントランスホール(定員各回10名)
※当日受付、先着順、13時以降参加費50円

「千支の『うま』で絵馬をつくらう」
日時 1月26日(日) 10時30分～16時

会場 エントランスホール(定員100名)
※当日受付、先着順、参加無料

国際研究フォーラム

「ロシアと中国の国境——諸民族の混住する社会における『戦略的バートナーシップ』とは何か?」

中国東北部を対象に、諸民族関係を考察する鍵概念として、「戦略的バートナーシップ」をとりあげ、議論します。

日程 1月8日(水)、1月9日(木)

会場 本館 第4セミナー室

※要事前申込、研究者対象
申込、お問い合わせ先

小長谷研究室
電話 06・6878・8274(直通)

国際シンポジウム

「北太平洋沿岸諸文化の比較研究——先住権と海洋資源の利用を中心に」

本シンポジウムでは、北太平洋沿岸諸文化に関する研究のこれまでの成果と調査の現状を比較検討します。

日程 1月11日(土)～1月13日(月・祝)

会場 本館 第4セミナー室(各回定員80名)
※申込不要、先着順、参加無料、11日のみ同時通訳あり

公開フォーラム

「古代文明の生成——西アジアとアンデス」
西アジアとアンデスの最新の調査成果から、

両古代文明の特性について討議していきます。
日程 1月26日(日)

会場 JPTタワーホール&カンファレンス(東京)(定員170名)
※申込不要、先着順、参加無料

みんなく映画会/みんなくワールドシネマ「ラビット・ホール」

交通事故で息子をなくした家族の和解と再生を描いた映画を通して、家族のあり方をあらためて考えるきっかけにしてください。

日時 1月25日(土) 13時30分～16時

会場 講堂(定員450名)
※申込不要、先着順、参加無料

※当日10時から講堂入口にて整理券を配布

●展示場リニューアル工事のお知らせ

展示場リニューアル工事のため、朝鮮半島の文化・中国地域の文化・日本の文化(沖縄のくらし)が閉鎖されます。

期間 3月19日(水)まで

●展示場一部閉鎖のお知らせ

本館2階展示場の空調設備更新のため、左記の期間、展示場の一部閉鎖をいたします。その間は観覧無料となります(ただし自然文化園(有料区域)を通行される場合は、入園料が必要です)。ご理解とご協力をお願いします。

1. 1月22日(水)まで

音楽の一部(言語、南アジア、東南アジア、中央・北アジア、アイヌの文化、日本の文化、ナビひろば、休憩所が閉鎖されます。

2. 1月23日(木)～2月19日(水)
オセアニア、アメリカ、ヨーロッパ、アフリカ、西アジア、音楽の一部が閉鎖されます。

●休館日のお知らせ

年始は1月4日(土)まで休館します。
※各イベントについてくわしくはホームページをご覧ください。

※電話でのお問い合わせの受付時間は、9時から17時(土日祝を除く)です。

国立民族学博物館創設40周年記念
日本文化人類学会50周年記念

「イメージの力——国立民族学博物館コレクションにさぐる」
会期 2月19日(水)～6月9日(月)

会場 国立新美術館 企画展示室2E(東京)

みんなくミニナール

会場 国立民族学博物館 講堂
時間 13時30分～15時(13時開場)

定員 450名(当日先着順)
参加費 無料

第428回 1月18日(土)
熱狂エチオジャズ・イン・

講師 川瀬慈(国立民族学博物館助教)



アジスアベバのジャズ・ファンクバンド

エチオピアでは、50年代から70年代にかけて、皇帝ハイレセラシエの護衛楽団がエチオピア特有のメロディと西洋のポピュラー音楽を絶妙にブレンドさせながら独自の音楽世界を発展させました。本ゼミナールでは、現在各国の音楽シーンで話題沸騰の「エチオジャズ」の歴史とその世界的な広がり、音楽家たちの素顔を紹介します。

第429回 2月15日(土)

ベトナムの黒タイのうた、おはなし

講師 榎永真佐夫(国立民族学博物館准教授)



ベトナム、イエンバイ首ギアロにある黒タイの村で

山がちなベトナム西北地方には、たくさんの民族が高度に応じてすみわけています。そのうち黒タイという人びとは、盆地に水田をひらいてくらししています。かれらが村で伝えてきた歌やお話を紹介し、かれらが自分たちのくらしをどのようにイメージしているのか、村のくらしの現状にふれながらお話しします。

友の会

友の会講演会(大阪)

会場 国立民族学博物館 第5セミナー室
定員 96名(当日先着順、会員登録必須)

第427回 1月11日(土) 14時～15時
「みんなくコレクションを語る」
中央アジアの民家の現在

講師 藤本透子(国立民族学博物館助教)

※収集されたばかりのゆりかごやフェルトの敷物、弦楽器などをご覧いただきます。

第428回 2月1日(土) 14時～15時

神殿更新で社会が変わる——南米アンデス文明の誕生

講師 関雄二(国立民族学博物館教授)

2013年夏に「ジャガー人間」の石像が発掘されたことはみなさんの記憶にも新しいことと思います。この発見は紀元前8000～5000年代がアンデス社会の大きな転換点であったことを示す重要な意味をもっています。従来、食料生産の向上が文明の推進力と考えられてきましたが、そうではない可能性を示す「神殿更新」説も紹介しながら、今回の発見の意義についてお話しします。

第429回 3月1日(土) 14時～15時

梅棹忠夫のモンゴル調査をたぐる

講師 小長谷有紀(国立民族学博物館教授)

東京講演会
会場 国立新美術館研修室A・B
定員 60名(要事前申込)

第108回 3月9日(日) 13時半～14時15分

国立新美術館での「イメージの力」展開催にあたって

講師 須藤健一(国立民族学博物館館長)

※須藤館長の講演会に続いて、国立新美術館研究員による展示概要の解説(30分)もおこないます。

国立民族学博物館
ミュージアム・ショップ

電話 06-6876-3112
FAX 06-6876-0875
e-mail shop@senri-f.or.jp
水曜日定休

ウェブサイトもご覧ください。
オンラインショップ
「World Wide Bazaar」
http://www.senri-f.or.jp/shop/

「世界のごちそう」レトルト食品登場。
難民自立の支援にも。

神戸の多国籍料理店「世界のごちそうパレルモ」さんの料理がレトルトパックになりました。

食を通して、差別や貧困など世界のさまざまな問題を多くの人に知ってほしいという願いがこめられた四種類の料理です。なかでもミャンマーの「チエッタールヒン(鶏肉とジャガイモのスライス煮込み)」は、難民支援協会発行の「海を渡った故郷の味——Flavours Without Borders」のレシピをもとにした「ラボメニュー」売り上げの一部がこの協会に寄付されます(協会については本誌2013年8月号「多文化をあきなう」を参照)。世界の料理を味わいながら、その地に暮らす人ひとの生活や文化に目を向けてみませんか。



世界のごちそうシリーズ レトルト4種 (一人前、200g)
ミャンマーの家庭の味「チエッタールヒン」(写真右上)
世界のごちそう パレルモの名物料理「アラビアンライス」
ブラジルの国民食「フェイジョアータ」 各 630円
アメリカ南部の料理「ガンボ」
書籍「海を渡った故郷の味——Flavours Without Borders」 1,575円

価格はすべて税込

●人間文化研究機構 監修

「HUMAN——知の森へのいざない」vol.05
平凡社 定価1,575円



特集「酒と日本文化」
石毛直道・民博名誉教授と民俗学者・神崎宣武・旅の文化研究所長が酒について縦横に語り、多分野の研究者と酵母開発者、きき酒師等が、太古から現代までの醸造と飲酒の様相について記述します。

■西尾哲夫 著
『ヴェニスの商人の異人論——人肉・ポンドと他者認識の民族学』



みずす書房 定価4,410円
借金の形に約束した人肉1ポンドの意味は? シェイクスピアの源流をたどり世界に類話を渉猟して社会構造を明かす刺激的な文化論です。

刊行物紹介

■平井京之介 著
『微笑みの国の工場——タイで働くということ(フィールドワーク選書)』



臨川書店 定価2,100円
日系工場のタイ人労働者と日本人駐在員とのあいだで、通訳兼マネージャーとして働きながら、企業の実態や労働者の本音・価値観に迫ります。